

日本人の



京都、こころここに

れもの vol.05

和歌・型の美

冷泉家時雨亭文庫 常務理事 冷泉 貴実子さん



れいぜい・きみこ 藤原俊成・定家父子を祖とする冷泉家の24代為任氏の長女として生まれる。25代為任夫人。冷泉家時雨亭文庫常務理事。同事務局長。冷泉流歌道を指導、各地で和歌に関する講演を行っている。

現代短歌は京都新聞紙上を初めてして、大変盛んだ。歌人と呼ばれる人は、有名無名を問わず枚挙にいとまがない。皇室から庶民に至るまで、あらゆる人の表現手段となっている。芸術の中の文学の一分野として確固たる位置を占めている。

明治以前は「芸」「技」受け継がれた「型の美」のみであった

芸術は、明治になって文明開化と共に日本に広がった考え方で、自我を表現するものである。あなたと私は異なる。異なることを表現する。異なる表現がある。少しも異なる何かを見出す。そして、「ちがわなくっちゃ」である。陳腐といふことは最悪の評価だ。では、明治までのこの国にあったものは何か。あったのは芸、技で、そこには自我を表現する意図はなかった。代々受け継がれた型の美のみが存在した。型というものは、結局洗練された美のことである。



「梅に鶯」の扇 (冷泉家時雨亭文庫所蔵)

の中心に位置したのは和歌である。宮廷では様々な和歌会が開かれた。天皇出御の前で行われた最高の和歌会は、神を祭り、神と共にいることを喜ぶものであった。一種の神楽である。そこにはまず、和歌会の目的があった。

和歌の目的に従った美辞麗句がある

例えば新年の歌会始ならば、新年を寿ぐことが第一の理由であり、新年がめでたくない人は、参加の権利がない。現代の短歌会なら、新年が来ても私は悲しいと詠むのも、いや私はそもそも年始なんか関係ないと言ふのも自由である。反対に誰かを偲ぶ和歌会なら思ひ出すさへ涙がこぼるとなる。やと病人から解放されて自由がうれいとはならない。

和歌の目的に従った一種の美辞麗句があるといえはいいのだろうか。春を告げるのは、いつも梅に鶯。もちろんその源は中国にあるのだが、古今集の時代にそれは確立した。雪が残る枝より、かすかに梅の香が漂い、鶯の初音が聞こえる。

それを元にして美しいことばが伝えられて来た。「句梅が香」「梅が香霞む」「春告げて鳴く」「千代の初音」等々。これが和と呼ばれる文化に絶大な影響を与えた。能楽、長唄、絵画、工芸、茶道、香道。およそ和の文化というものの基礎をなしている。

例えば茶会を考えてみよう。初釜は春を寿ぐ会である。待合は春一番に芽を吹く柳が活けられている。本席は梅。茶杓の銘は初音。茶碗は早蕨と並ぶ。もし庭に美しい菊が残っているからと言って菊を床に入れたら、これは同じ春を喜ぶ型の文化に違反する。

同じ座で同じ季節を、同じ気分で見守るものが和の文化だと思ふ。もちろん異なると言っているのは論外だが、それを売っているのが京都だ。

平安より江戸の末まで、わが国の文芸の美のみが存在した。型というものは、結局洗練された美のことである。

では実際に梅に鶯が鳴いているのを見聞きしたことがあるかという、現代ではもちろんほとんど見たことがないが、多分、平安時代でも、それを美見することは難しかったはずである。

戦後、日本人は物の豊かさで引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

経験が問うているのではない。梅に鶯という型があるのである。秋は紅

梅に鶯、紅葉に鹿、と詠む文化 同じ座で、季節、気分を共有



冷泉家新年恒例の歌会始。平安から江戸の末までわが国の文芸の中心に位置したのは和歌だった

冷泉家新年恒例の歌会始。平安から江戸の末までわが国の文芸の中心に位置したのは和歌だった



鹿図 孝明天皇遺愛品 (冷泉家時雨亭文庫所蔵)

戦後、日本人は物の豊かさで引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

戦後、日本人は物の豊かさで引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

大暑が過ぎても、まだまだ猛暑が続く候。激しい夕立にひととき和らいだ暑さも、地面を濡らした雨が湯気のようなになり、かえって蒸し暑さを感じる。という気分を言い得た七十二候の暦です。

通り雨のせいで蒸し暑くなった後、今度は驟時雨となると、不快指数も一気に上がってきます。こんな時候にエアコンも扇風機もなかった先人たちは、庭に水を撒ぎ、井戸水で葦簀を濡らし、軒先には風鈴を吊して涼を取り入れる工夫をしました。見習いたい智慧です。



京南倉庫株式会社 代表取締役 上村多恵子

京都の美しい風景について

歴史に裏打ちされた京都の美しい風景を、大切に未来に残したい。風景は、見る人の心がゆったりしている時、急ぐ時、荒立したい時、悲しい時では変化し移ろう。又、景色も陽光の中に影がさし水に染み色をかえ、雪をかぶり苔を帯び、風にゆられ四季の表情が変わる。そして人が心にそれを留め、感じたいと思わなければ残らないものだ。求めていけば急に風景が饒舌に話しかけて景色が動き、風景との一体感もたらされる瞬間がある。

京都に住む私には、それは例えば近くの散歩道としての岡崎疏水、賀茂川沿い、哲学の道であり、愛宕街道である。又町家の並ぶ露地でもある。名園や庭園、神社仏閣だけでなく何気ない日々の生活の中の京都の風景に感謝する。

ただこの感慨がうずめるのは電線・電柱の存在。ゴミの山。色の合わないカラー舗装やガードレール。歩道橋。派手な広告看板。放置バイクや自転車等は残念で痛ましい。人はなぜ美しい風景に魅せられるのか。それは自分自身の心の投影。だから故に自分も人も愛し、京都の風景をやさしく愛してゆきたい。(次回8月7日のメッセージは遊藝漫画家の南久美子さんです)

nichicon

すぐに、期待以上のこと。Can Do!

人と、地球と、技術をつなぐ。

エコカーの本格的普及やクリーンエネルギー技術の進展。そして、それらを包括するスマートグリッド構想など、新たな広がりを見せはじめた環境技術。ニチコンは、「自動車・車両関連機器」「エコ関連機器」「デジタル家電機器」「情報通信機器」など、最先端分野で不可欠なデバイスを提供するメーカーとして、確かな品質と技術力で、地球にやさしい社会の実現を支えてまいります。



For Automobiles-related Appliances 自動車・車両関連機器用

EV用急速充電スタンド

太陽電池・蓄電池併設の低圧受電型EV用急速充電システム



太陽光発電・蓄電機能付急速・普通充電併用器



名神高速道路吹田サービスエリア設置

急速・普通充電充電ユニット本体

EV用車載パワーモジュール

充電器 充電器一体型 DC-DCコンバータ



機器を支える高機能デバイス

- 導電性高分子アルミ固体電解コンデンサ
アルミ電解コンデンサ
タンタル固体電解コンデンサ
フィルムコンデンサ
電解二重層コンデンサ"EverCAP"
機能モジュール
正特性サーミスタ"ボジアル"
スイッチング電源



For Ecology-related Appliances エコ関連機器用